

## 模擬便使用による高齢者のおむつ交換体験からの学生の学び —— 校内実習終了後のアンケート調査を通して ——

太田 淳子\* 山本 君子\*

**Key Words:** 老年看護学, 高齢者, 模擬便, 陰部洗浄, おむつ交換

**【要旨】** 本研究は、看護学生（以下、学生とする）の模擬便を使用した陰部洗浄・おむつ交換体験の学習効果と学生が「どこに戸惑い」「どこが困難なのか」「何に気づき」「何を学んでいたのか」について明らかにするために調査した。対象者は、A看護専門学校（3年課程）2年生86名に自記質問紙法を行い、52名（回収率60.5%）の有効回答を得た。

模擬便を使用した陰部洗浄・おむつ交換体験に対して80%以上の学生から肯定的意見と70%以上の学生から臨地実習で役立つと回答を得られた。模擬便を使用した陰部洗浄・おむつ交換体験は、臨場感を実感しながら学ぶことができ、実践に活かすことができる教育方法であることが明らかになった。看護師役体験から、手技の未熟さや基本的手順を習得していないこと、周囲に目を向ける余裕の無さ、排泄物（模擬便）を見た時の精神的衝撃に学生は戸惑い、清潔・不潔を意識して行うこと、新しいおむつ・リネン類など周囲へ便汚染しないような手技・配慮に困難さを感じていた。患者役体験から「羞恥心」「不快感」「不安」「早く終わってほしい」「申し訳ない」「配慮」の気づき・学びを得ていた。

### I. はじめに

介護保険制度における要介護者又は要支援者と認定された65歳以上の者は、平成18（2006）年度末で425.1万人となっており、高齢者人口の16.0%を占めている。介護が必要になった主な原因は、「脳血管疾患」が23.3%と最も多く、次いで、「認知症」14.0%、「高齢による衰弱」13.6%、「関節疾患」12.2%となっている<sup>1)</sup>。その中には、寝たきり状態の高齢者もいる。「寝たきり」とは、国民生活基礎調査（厚生労働省・1998年）によると、「要介護者でほとんど寝ている状態が6カ月以上続いている者」と規定している。このような寝たきり状態にある高齢者は、基本的欲求が阻害されやすい。特に、寝たきり状態にある高齢者にとってベッド上での排泄が多くなり、本来の排泄の基本的欲求を充足できない状態になる。排泄援助は、寝たきり状態にある高齢者にとって排泄物の除去に留まらず皮膚トラブル、褥瘡、尿路感染の予防など様々な効果があり

重要な看護援助である。また、日常生活動作の拡大や生活の質の向上を目指す援助の基本ともなる。そのため老年看護では、高齢者を的確にアセスメントし、その人に合わせた排泄援助技術を習得することが求められる。本校では、看護実践場面に近い体験をすることを目的に、2006年から小麦粉と水、絵具を混ぜた模擬便を作成し、おむつ交換の校内実習を行っている。

これまで模擬便での演習を実施し、その後実際の患者への援助においてどのように生かされたかを明らかにした報告はある<sup>2)3)</sup>。しかし、模擬便を使用した陰部洗浄・おむつ交換体験の学習効果と模擬便を使用して、便失禁している寝たきり状態にある高齢者のおむつ交換に学生が「どこに戸惑い」「どこが困難なのか」「何に気づき」「何を学んでいたのか」について明らかにしている研究はない。

そこで、老年看護学Ⅱ「寝たきり状態にある高齢者のおむつ交換」の校内実習において、模擬便を用いることでどのような学習効果があったのか、便失禁して

\*東京医科大学看護専門学校専任教員

いる寝たきり状態にある高齢者のおむつ交換に学生が「どこに戸惑い」「どこが困難なのか」「何に気づき」「何を学んでいたのか」明らかにする。

## II. 研究目的

本研究の目的は、模擬便を使用した陰部洗浄・おむつ交換体験の学習効果を明らかにする。また、学生が模擬便を使用することで便失禁している寝たきり状態にある高齢者のおむつ交換に「どこに戸惑い」「どこが困難なのか」「何に気づき」「何を学んでいたのか」明らかにする。

## III. 研究方法

### 1. 対象

模擬便を使用した「寝たきり状態にある高齢者のおむつ交換」を体験したA看護専門学校(3年課程)2年生86名。

### 2. 調査方法および期間

調査方法は、無記名の自記式質問紙法を用いた。配布方法は、老年看護学Ⅱ「寝たきり状態にある高齢者のおむつ交換」の校内実習終了後とし、回収方法は約20日間の期間を設け留め置き法とした。

### 3. 実施方法

#### 1) 模擬便の作成

小麦粉と水、茶色・黄土色・黒色の絵具を混ぜ合わせ泥状に作成する。

#### 2) 患者役の準備

患者役の学生はスパッツ等のズボンを履き、その上からビニール袋(20~45ℓ用)の角を切り取ったものを履いてもらう。その上から手掌程度の量の模擬便を付着させたおむつを着用する。

#### 3) 事例

80歳の女性、10年前に胃癌と診断され、1年前から寝たきりの状態になっている。衰弱がみられ、3日前に入院している。麻痺、拘縮、言語障害はなくコミュニケーションは普通に取れる。しかし、自分で横を向くことはできない。便意・尿意がはっきりしないため、紙おむつを着用している。下痢があり、仙骨部に発赤がみられている。おむつ交換時「いつもすまないわね」と気兼ねしている。ベッドサイドに行ったら便の臭いがした。

#### 4) 事前課題

事例患者のおむつ交換と陰部洗浄の手順と根拠・留意点をレポートに記載する。

### 4. 質問紙の項目

- 1) 模擬便を使用した陰部洗浄を体験してよかった。
- 2) 模擬便を使用したおむつ交換を体験してよかった。
- 3) 模擬便を使用した陰部洗浄は、臨地実習で役立つと思うか。
- 4) 模擬便を使用したおむつ交換は、臨地実習で役立つと思うか。
- 5) 3), 4) の回答に対して、なぜそのように思いましたか。
- 6) 模擬便を使用したおむつ交換(陰部洗浄を含む)を体験して戸惑った・困った場面どこでしたか。
- 7) 模擬便を使用したおむつ交換(陰部洗浄を含む)を体験して難しいと感じた手技・手順はどこでしたか。
- 8) 模擬便を使用したおむつ交換(陰部洗浄を含む)を看護師役として体験して、どのようなことを感じましたか。
- 9) 模擬便を使用したおむつ交換(陰部洗浄を含む)を患者役として体験して、どのようなことを感じましたか。

### 5. 分析方法

質問紙項目の「模擬便を使用した陰部洗浄を体験してよかった」「模擬便を使用したおむつ交換を体験してよかった」「模擬便を使用した陰部洗浄は、臨地実習で役立つと思うか」「模擬便を使用したおむつ交換は、臨地実習で役立つと思うか」の回答形式は、「とてもそう思う(5点)」「そう思う(4点)」「普通(3点)」「そう思わない(2点)」「全くそう思わない(1点)」の5段階で評定を求めた。分析は、単純集計とした。

質問紙項目の「模擬便を使用した陰部洗浄・おむつ交換は、臨地実習で役立つと思うか、の回答に対してなぜそう思いましたか」「模擬便を使用したおむつ交換(陰部洗浄を含む)を看護師役として体験して、どのようなことを感じましたか」「模擬便を使用したおむつ交換(陰部洗浄を含む)を患者役として体験して、どのようなことを感じましたか」では、学生が自由に表現したものを協同研究者2名で記述の意味を読み取り、抽出した記述内容を意味・内容が変わらないように要約し、類似性・相違性に従い分類した。

質問紙項目の「模擬便を使用したおむつ交換(陰部洗浄を含む)を体験して戸惑った・困った場面はどこ

でしたか]については、① おむつをあけた時に便(模擬便)があること ② 必要物品が足りなかった ③ 事前に考えた手順と違った ④ 洗うことに集中してしまった ⑤ 時間がかかりすぎた ⑥ なし ⑦ その他から複数回答可とした。「模擬便を使用したおむつ交換(陰部洗浄を含む)を体験して難しいと感じた手技・手順はどこでしたか]については、① 便(模擬便)を取り除く ② お湯のかけ方(水圧の程度),お湯の流れ方 ③ 便(模擬便)汚染された陰部の洗い方 ④ お湯をかける手と洗う手の使い方 ⑤ 不潔になった(便汚染された)手の使い方 ⑥ 不潔になった(便汚染された)手袋の交換とその時期 ⑦ 新しいおむつ,寝衣,シーツへの汚染防止 ⑧ 便(模擬便)で汚染されたおむつの後始末 ⑨ なし ⑩ その他から複数回答可とした。分析は単純集計とした。

## 6. 倫理的配慮

1) おむつ交換の校内実習では、学生の肌の露出や皮膚・衣類等への汚染がないよう配慮し、患者役の学生はスパッツ等のズボン履き、その上からビニール袋(20~45ℓ用)の角を切り取ったものを履いてもらう。その上から模擬便を付着させたおむつを着用してもらう。おむつを着用すること、模擬便を使用することに対して拒否することができることを事前に説明した。

2) 研究対象の看護学生に本研究の目的と内容を説明し、本研究調査への参加は任意であること、調査内容については本研究以外の目的に使用しないこと、成績には関係しないこと、研究の発表において個人が特定されないと同意を得る。回収箱は教員と接触せずに投函できる場所とし、学生が調査用紙を回収箱に投函することで同意を得たとすることを説明した。

3) 東京医科大学医学倫理審査委員会の承認を得て調査を実施した。

## IV. 結 果

調査に協力を得られた A 看護専門学校(3年課程)2年生 86名に配布し、52名(回収率 60.5%)の回答を得た。

### 1. 模擬便使用の陰部洗浄体験結果

学生が模擬便を使用した陰部洗浄体験の結果を表1に示した。模擬便を使用した陰部洗浄を体験してみてよかったについて、とてもそう思う42名(81%),そう思う7名(13%),普通2名(4%),そう思わない1名(2%),全くそう思わない0名(0%)であった。

### 2. 模擬便使用のおむつ交換体験結果

学生が模擬便を使用したおむつ交換体験の結果を表2に示した。模擬便を使用したおむつ交換を体験してよかったについて、とてもそう思う45名(87%),そう思う7名(13%),普通0名(0%),そう思わない0名(0%),全くそう思わない0名(0%)であった。

### 3. 模擬便使用の陰部洗浄の臨地実習への効果

学生が模擬便を使用した陰部洗浄は、臨地実習で役立つと思うかの結果を表3に示した。模擬便を使用した陰部洗浄は、臨地実習で役立つと思うかについて、とてもそう思う38名(73%),そう思う10名(19%),普通4名(8%),そう思わない0名(0%),全くそう思わない0名(0%)であった。

### 4. 模擬便使用のおむつ交換の臨地実習への効果

学生が模擬便を使用したおむつ交換は、臨地実習で役立つと思うかの結果を表4に示した。模擬便を使用したおむつ交換は、臨地実習で役立つと思うかについて、とてもそう思う44名(85%),そう思う8名(15%),普通0名(0%),そう思わない0名(0%),全くそう思わない0名(0%)であった。

### 5. 模擬便を使用した陰部洗浄・おむつ交換は、臨地実習で役立つと回答した理由

模擬便を使用した陰部洗浄・おむつ交換は、臨地実習で役立つと思うか、の回答に対する理由を表5に示した。学生の記述内容を「実践的」「リアリティ」「気づき」「患者理解」「衝撃の緩和」に区分した。実践的は、「臨床の現場に近い内容での実習だった」「練習が臨床で生きると思うから」「体験しないとおむつ交換の大変さが理解できなくて実習で困るから」などであった。リアリティは、「かなりリアルで本当の便をキレイにすることの大変さが身にしみて感じたと思うから」「模擬便が有るのと無いのでは違う。リアルで良かった」「実際に想定できる」などであった。気づきでは、「便の有無でこんなに難しい技術なのかと本当に驚いた。もっと練習が必要だと感じた」「教科書で手順など覚えたはずなのに実際にやってみたら全然違ったから」「便が残ってしまうと体位変換時に衣類やネンに便が付いてしまうし、新しいおむつにもついてしまうことがわかったから」などであった。患者理解は、「患者の気持ちをリアルに体験できた」「患者の気持ちを理解できる」などであった。衝撃の緩和では、「模擬便でも一度でもやっておけば、初めて見た時のショックが軽減するため」「臨地実習で初めて便を目の前にするより良いと思ったから」などであった。

**表1 模擬便使用の陰部洗浄体験の結果**

質問 模擬便を使用した陰部洗浄を体験してよかった。

n = 52 (回収率 60.5%)

	人	%
とてもそう思う	42	81%
そう思う	7	13%
普通	2	4%
そう思わない	1	2%
全くそう思わない	0	0%

**表2 模擬便使用のおむつ交換体験の結果**

質問 模擬便を使用したおむつ交換を体験してよかった。

n = 52 (回収率 60.5%)

	人	%
とてもそう思う	45	87%
そう思う	7	13%
普通	0	0%
そう思わない	0	0%
全くそう思わない	0	0%

**表3 模擬便使用の陰部洗浄の臨地実習への効果**

質問 模擬便を使用した陰部洗浄は臨地実習で役立つと思うか。

n = 52 (回収率 60.5%)

	人	%
とてもそう思う	38	73%
そう思う	10	19%
普通	4	8%
そう思わない	0	0%
全くそう思わない	0	0%

**表4 模擬便使用のおむつ交換の臨地実習への効果**

質問 模擬便を使用したおむつ交換は臨地実習で役立つと思うか。

n = 52 (回収率 60.5%)

	人	%
とてもそう思う	44	85%
そう思う	8	15%
普通	0	0%
そう思わない	0	0%
全くそう思わない	0	0%

**6. 模擬便を使用したおむつ交換 (陰部洗浄を含む) を体験して戸惑い・困難**

学生が模擬便を使用したおむつ交換 (陰部洗浄を含む) を体験して戸惑った・困った場面 (複数回答可) を表6-1に, その他の場面を表6-2に示した。時間がかかりすぎた25件, 洗うことに集中してしまった24件, おむつをあけた時に便 (模擬便) があること16件, 事前に考えた手順と違った15件, 必要物品が足りなかった11件, その他10件, なし1件であった。

**7. 模擬便を使用したおむつ交換 (陰部洗浄を含む) を体験して難しいと感じた手技・手順**

学生が模擬便を使用したおむつ交換 (陰部洗浄を含む) を体験して難しいと感じた手技・手順 (複数回答可) を表7に示した。不潔になった (便汚染された) 手の使い方36件, 新しいおむつ・寝衣・シーツへの汚染防止34件, 便 (模擬便) 汚染された陰部の洗い方29件, お湯をかける手と洗う手の使い方29件, 便 (模擬便) を取り除く28件, 不潔になった (便汚染された) 手袋の交換とその時期26件, お湯のかけ方 (水圧の程度), お湯の流れ方19件, 便 (模擬便) で汚染されたおむつの後始末14件, その他0件, なし0件であった。

**8. 模擬便使用のおむつ交換 (陰部洗浄を含む) の看護師役として体験**

模擬便を使用したおむつ交換 (陰部洗浄を含む) を看護師役として体験した感想を表8に示した。学生の記述内容を【患者への配慮】【清潔・不潔の区別】【便の洗浄】【迅速性】【抵抗感】【適切なおむつ装着】に区分した。患者への配慮は, 「おむつ交換に集中し過ぎて患者のことまで気を配れなかった」「夢中になってしまい, 患者の気持ちに気づきにくそう」「プライバシーの配慮を考えながら清潔に早く行わなければならない」「集中し過ぎて声かけがおろそかになった」などであった。清潔・不潔の区別は, 「清潔の手, 汚染された手の区別がうまくできなかった」「手袋にたくさん汚物がついて汚れが広がってしまった。清潔・不潔がごちゃごちゃになってしまった」「清潔, 不潔を守るのが難しかった」などであった。便の洗浄は, 「模擬便が肌につかないように陰洗やおむつ交換などすることはとても難しかった」「おむつに換える時に, 患者に便が付着してしまいそうだった」「便が付いた状態で陰部洗浄をするのは難しい」「便が洗浄のときなかなか取れずに苦労した」などであった。迅速性は, 「手技を素早くかつ丁寧に行うことが難しかった」「物品の準備や手順など様々な工夫が必要だと思った」「きちんと

表 5 模擬便使用の陰部洗浄・おむつ交換が臨地実習に役立つと回答した理由

質問 模擬便を使用した陰部洗浄・おむつ交換は、臨地実習で役立つと思うか、の回答に対して、なぜそのように思いましたか。

臨地実習に役立つと回答した理由	実践的	<p>臨床の現場に近い内容での実習だった            練習が臨床で生きると思うから            体験しないとおむつ交換の大変さが理解できなくて実習で困るから            現場に近い状態の実習ができたから            実際には更に大変そうだけど、教科書などでの学習よりは実践的だったから            実践的だから            臨地実習は校内実習よりも大変だと思うから            体験がないと臨地実習で感覚がつかめないから            模擬便を使用しなければ実習でやっても戸惑ってできなかったと思うから            いざ臨床に出て、初めての患者の前で行うのと、今、練習でしてやるのとスピードも技術も変わってくると思うから            事前に体験しておくことで臨床に出た時に上手く介助を行えると思ったから            実際にあると思うのでいい経験になった            臨床に近い感覚でできる            様々な患者がいると思うから</p>
	リアリティ	<p>かなりリアルで本当の便をキレイにすることの大変さが身にしみて感じたと思うから            模擬便が有るのと無いのでは違う、リアルで良かった            実際を想定できる            臨床にいる患者に近いと思ったから            とてもリアルだった            模擬便でもリアルだったので、方法が具体的に学べて良かった            有るのと無いのでは印象が違ってくると思うから            とてもリアルティーがあり、時間をかけてじっくりやれたので役に立つと思う</p>
	気づき	<p>便の有無でこんなに難しい技術なのかと本当に驚いた。もっと練習が必要だと実感した            教科書で手順など覚えたはずなのに実際にやってみたら全然違ったから            便が残ってしまうと体位変換時に衣類やリネンに便が付いてしまうし、新しいおむつにもついてしまうことがわかったから            色がついているため、どこが汚れたと分かりやすく1回で拭きとれないのも分かった            練習したことでやり方とかが分かるから            硬い感じの便より、今回のような軟便は難しいと思うから            適度な声かけ、おむつの構造と身体の構造を組み合わせることを学べた            おむつ交換・陰部洗浄を体験、習得することで患者に正しい知識・技術を援助できるから            患者の立場にたった時の気持ち、新たな発見、練習する時にどこが不十分であるかの理解など次につながる学習だった            見た目で便があると周囲に付かないように気を付けるし、プライバシーの保護もできる</p>
	患者理解	<p>患者の気持ちをリアルに体験できた            患者の気持ちを理解できる            患者の気持ちを考えることができるし、予め知識があれば応用もできるから            体験したことで少しだけでも不快感を感じる事ができたから</p>
	衝撃の緩和	<p>模擬便でも一度でもやっておけば、初めて見た時のショックが軽減するため            臨地実習で初めて便を目の前にするより良いと思ったから            見ただけで行くよりも一回でも体験していれば少しは衝撃も少ない気がするから</p>
その他	<p>衣服を濡らしてしまうのではないかと心配でそちらに気をとられてしまった            陰部モデルを使用していないので、あまり陰部洗浄の練習にはならなかった            陰部モデルを使用しないと大陰唇を上げるとか実際にやれないので適当になってしまう            陰部モデルを使用していないので、実践的な演習はできなかった。ビニール着用では拭きづらかった            ビニールの上からの洗浄だったのでよりリアリティを出すための工夫が必要            役に立つと思うが、個別のケースを繰り返さないと上手くはできないと思う</p>	

**表6-1 模擬便使用のおむつ交換 (陰部洗浄を含む) 体験の戸惑い・困難**

質問 模擬便を使用したおむつ交換 (陰部洗浄を含む) を体験して戸惑った・困った場面はどこでしたか、(複数回答) n=52

時間がかかりすぎた	25件
洗うことに集中してしまった	24件
おむつをあけた時に便 (模擬便) があること	16件
事前に考えた手順と違った	15件
必要物品が足りなかった	11件
その他	10件
なし	1件

**表6-2 体験の戸惑い・困難について その他の場面**

新しいおむつを入れる時	3件
おむつの位置	1件
おむつを中央にあわせること	1件
患者の自助能力に関すること	1件
模擬便が漏れそう	1件
おむつを外す時	1件
股間部モコモコ感	1件
おむつのしわがよった	1件

**表7 模擬便使用のおむつ交換 (陰部洗浄を含む) の難しかった手技・手順**

質問 模擬便を使用したおむつ交換 (陰部洗浄を含む) を体験して難しいと感じた手技・手順はどこでしたか、(複数回答)

不潔になった (便汚染された) 手の使い方	36件
新しいおむつ, 寝衣, シーツへの汚染防止	34件
便 (模擬便) 汚染された陰部の洗い方	29件
お湯をかける手と洗う手の使い方	29件
便 (模擬便) を取り除く	28件
不潔になった (便汚染された) 手袋の交換とその時期	26件
お湯のかけ方 (水圧の程度), お湯の流れ方	19件
便 (模擬便) で汚染されたおむつの後始末	14件

手順を覚え理解していないと患者に必要以上の負担をかけてしまう」であった。抵抗感は、「模擬便と認識していてもやはり抵抗感があった」「やっぱり顔をしかめたくなる思いはあった。それを表に出さないようにするのが難しいと思った」「おむつを外した時に便が付いていた時の反応をどうしたらいいのか考えた」であった。適切なおむつ装着は、「おむつを正しい位置にセットすることがとても難しいと思った」「おむつの置く位置がうまくいかなかった」などであった。

**9. 模擬便使用のおむつ交換 (陰部洗浄を含む) の患者体験**

模擬便を使用したおむつ交換 (陰部洗浄を含む) を患者役として体験した感想を表9に示した。学生の記述内容を【羞恥心】【不快感】【不安】【早く終わってほしい】【申し訳ない】【配慮】に区分した。羞恥心は、「模擬便だったが恥ずかしかった」「便を取り除いてもらうことに対して恥ずかしいと思った」「陰部を見られることはもちろん恥ずかしい。便があること、また臭気があればより羞恥心を感じるのだと実感した」「(服を着ていても) 陰部を他人にあずけるのは、かなり抵抗感があった」などであった。不快感は、「感触が気持ち悪かったし、おむつを付けるということが苦痛とい

うこともわかった」「患者がいかに不快な思いをしているかわかった」「おむつをしている間、ねちょねちょして気持ち悪かった。模擬便だから冷たく感じたが本物だったから生温かく感じるのだろうかと思うとさらに嫌な気持ちになった」「汚れたおむつの上で洗われるのはあまり気分の良いものではなかった」不安は、「衣服に付いていないか、洗浄用の水がこぼれていないか不安になった。看護師の手際が悪いと患者も不安になる」「きちんと拭けているか不安」「便がもれないか、付かないかハラハラした」「声かけがないと不安」などであった。早く終わってほしいは、「少しでも早く終わらないかという気持ち」「早く交換してほしいと感じた」「迅速に援助を行ってほしい」などであった。申し訳ないは、「申し訳ない気持ちがあるので自尊心を傷つけないでほしい」「申し訳ないなと思う気持ちがわかった」「何か看護師に悪いなと思ってしまう」などであった。配慮は、「看護師が手技に夢中になっていて患者に気をまわしてもらえない (足が丸裸になって寒いなど)」「せっかくやるならキレイにして欲しいし、自分の状態、気分も聞いてほしいと思った」「いきなりお湯をかけられるとビックリする」「看護師が慌ただしくしていたらお願いしにくい」などであった。

表8 模擬便使用のおむつ交換(陰部洗浄を含む)の看護師体験

質問 模擬便を使用したおむつ交換(陰部洗浄を含む)を看護師役として体験して、どのようなことを感じましたか。

患者への配慮	<p>おむつ交換に集中し過ぎて患者のことまで気を配れなかった  夢中になってしまい、患者の気持ちに気づきにくそう  プライバシーの配慮を考えながら清潔に早く行わなければならない  集中し過ぎて声かけがおろそかになった  いっぱいいっぱいになってしまい、羞恥心の考慮があまりできなかった  患者の気持ちを思って行動していない部分もあったので気をつけたい  患者の事を考えて行わなければいけないと思った  声かけ、プライバシーの保護が大変  本物は臭いもあるので患者の羞恥心を配慮したい  プライバシーに配慮する。声かけをきちんとする  交換等に必死で患者に対する配慮を忘れがち  羞恥心を考える  患者の羞恥心のために素早く、そして声かけすることがとても大事  配慮の仕方が難しかった  必死になりすぎて患者の顔などがよく見れなかった  声かけが大切</p>
清潔・不潔の区別	<p>清潔の手、汚染された手の区別がうまくできなかった  手袋にたくさん汚物がついて汚れが広がってしまった。清潔・不潔がごちゃごちゃになってしまった  清潔、不潔を守るのが難しかった  清潔、不潔の手を分けられなかった  清潔操作に気をつけながら手早くやるにはコツがある  便が手に付いて工夫することが大切だと思った  汚染と清潔を分ける工夫が必要</p>
便の洗浄	<p>便が付いた状態で陰部洗浄するのは難しい  模擬便が肌につかないように陰洗やおむつ交換などすることはとても難しかった  おむつに換える時に、患者に便が付着してしまいそうだった  便が洗浄のときなかなか取れずに苦労した  便があるのでとても難しかった  便を取り除くのが難しかった  なかなか便が流れなくて大変だった</p>
迅速性	<p>手技を素早くかつ丁寧に行うことの難しかった  物品の準備や手順など様々な工夫が必要だと思った  きちんと手順を覚え理解していないと患者に必要以上の負担をかけてしまう  頭では方法は分かっているが、なかなか患者を前にすると難しい  すばやく洗浄したり、おむつ交換するのが大変だった  すぐくあせりながらやっていた</p>
抵抗感	<p>模擬便と認識していてもやはり抵抗感があった  やっぱり顔をしかめたくなる思いはあった。それを表に出さないようにするのが難しかったと思った  おむつを外した時に便が付いていた時の反応をどうしたらいいのか考えた  最初におむつを開けて見た時に声を出したことがいけなかったと思った  やっぱり少し抵抗があった</p>
適切なおむつ装着	<p>おむつを正しい位置にセットすることがとても難しかったと思った  おむつの置く位置がうまくいかなかった  おむつの位置の当て方が難しかった</p>

表9 模擬便使用のおむつ交換 (陰部洗浄を含む) の患者体験

質問 模擬便を使用したおむつ交換 (陰部洗浄を含む) を患者役として体験して, どのようなことを感じましたか.

羞恥心	<p>模擬便だったが恥ずかしかった                  便を取り除いてもらうことに対して恥ずかしいと思った                  陰部を見られることはもちろん恥ずかしい。便があること, また臭気があればより羞恥心を感じるのだと実感した                  (服を着ていても) 陰部を他人にあずけるのは, かなり抵抗感があった                  恥ずかしい気持ち                  早くやってほしいという羞恥心があった                  恥ずかしい, 自分の便じゃないのに自分に付いていることでリアルな感じだった                  恥ずかしい, 看護師にゆとりがないともっと恥ずかしいし気まずい                  とても恥ずかしかった, 見られなくなかった                  恥ずかしかった, 陰洗に集中されて嫌だった, 汚いと思って欲しくないと思った                  とても恥ずかしかった, 見られなくなかった                  自分が本当に交換してもらう立場だと思うと恥ずかしかった                  便を見られるのが恥ずかしい                  間接的とはいえ, 臀部や陰部付近を他人に触られるのは嫌だな, 患者の気持ちに近づけた                  恥ずかしい気持ちと遠慮してしまう気持ちが分かった                  あまり長い間, 陰部のあたりを見られるのは嫌だった                  足を開いているのが辛かった, 介護者の顔を見たくないと思った</p>
不快感	<p>感触が気持ち悪かったし, おむつを付けるということが苦痛ということもわかった                  患者がいかに不快な思いをしているかわかった                  おむつをしている間, ねちょねちょして気持ち悪かった。模擬便だから冷たく感じたが本物だったから生温かく感じるのだと思うとさらに嫌な気持ちになった                  汚れたおむつの上で洗われるのはあまり気分の良いものではなかった                  気持ち悪かった, モコモコして寝心地も良くなかった                  模擬便がリアルで気持ち悪かった                  不快感が大きかった                  陰部が不潔で気持ち悪いと思うのでキレイに洗浄して欲しいと思った                  汚物の感触が気持ち悪く, おむつのズレが気になった                  便が冷たくて不快                  今回は (模擬便) 量が少なかったから不快感も少なかったが, もっと量が多いと不快感も多くなると思うので配慮が必要                  便によって汚染されることにすごく抵抗があった                  湯温が下がるなど本当は気持ち良いはずの事でもちょっとした事で不快になってしまう                  おむつの付け方によって気持ち悪さが全然違うと思った</p>
不安	<p>衣服に付いていないか, 洗浄用の水がこぼれていないか不安になった。看護師の手際が悪いと患者も不安になる                  きちんと拭けているか不安                  便がもれないか, 付かないかハラハラした                  声かけがないと不安                  衣類やリネンを汚しそうで怖かった                  いろんな所に付くのではないかと心配だった                  おむつを新しく装着した時にズレていたらと思う気持ち                  後ろにもれないか横もれしないか不安だった                  ちゃんと洗えているか不安                  とにかくもれや汚れが同じに付着しないかどこか心配だった                  どうなっているのか分からなくて不安だった</p>
早く終わってほしい	<p>少しでも早く終わらないかという気持ち                  早く交換してほしいと感じた                  迅速に援助を行ってほしい                  早く終わらせて欲しかった</p>
申し訳ない	<p>申し訳ない気持ちがあるので自尊心を傷つけないでほしい                  申し訳ないと思う気持ちがわかった                  何か看護師に悪いなと思ってしまう                  排便をしてしまったという申し訳ない気持ち</p>
配慮	<p>看護師が手技に夢中になっていて患者に気をまわしてもらえない (足が丸裸になって寒いなど)                  せっかくやるならキレイにして欲しいし, 自分の状態, 気分も聞いてほしいと思った                  いきなりお湯をかけられるとビックリする                  看護師が慌ただしくしていたらお願いしにくい</p>

## V. 考 察

### 1. 模擬便を使用した陰部洗浄・おむつ交換体験の学習効果

体験後の質問紙に回答した学生52名中、模擬便を使用した陰部洗浄体験をしてみてよかったについて、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した者は49名、模擬便を使用したおむつ交換体験をしてみてよかったについて、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した者は52名であり、体験に対する肯定的な意見が多かった。また、模擬便を使用した陰部洗浄は、臨地実習で役立つと思うかについて、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した者は48名、模擬便を使用したおむつ交換は、臨地実習で役立つと思うかについて、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した者は52名であり、リアリティある体験を実践に活かすことができると評価していることがわかった。その理由として「臨床の現場に近い内容での実習だった」「かなりリアルで本当の便をキレイにすることの大変さが身にしみて感じたと思うから」など「実践的」「リアリティ」を理由に挙げる学生が多かった。水戸が「実践能力につながる看護技術とは『実践の場で活用できる』技術のことを指す。そのためには、学内演習の場における臨場感ある教育方法の工夫が課題になる<sup>4)</sup>」と述べている。模擬便を使用した陰部洗浄・おむつ交換体験は、学生が臨場感を実感しながら学ぶことができ、実践に活かすことができる教育方法であると考えられる。

理由の中には「便の有無でこんなに難しい技術なのかと本当に驚いた。もっと練習が必要だと実感した」「教科書で手順など覚えたはずなのに実際にやってみたら全然違ったから」と「気付き」を理由に挙げる学生も多かった。模擬便を使用したことで、1年次に排泄をしていない人の便器を用いた陰部洗浄やおむつ交換の技術より難易度が増し、臨地実習で初めて体験した場合の困難さや戸惑いを推測し、主体的な技術練習への動機づけを高めることができたと思われる。

少数ではあるが、「模擬便でも一度でもやっておけば、初めて見た時のショックが軽減する」「臨地実習で初めて便を目の前にするより良いと思った」など衝撃の緩和を述べる学生もいた。一般的に排泄行為は「恥ずかしいこと」排泄物を「不浄・不潔なもの」といった捉え方をするように学習されておりマイナスイメージが強い。そのため、排泄は人知れずひっそり行うものという認識である<sup>5)</sup>。日本のトイレ環境は清潔・快

適性が高まり、排泄物の処理環境は整っている。学生が日常で他人の排泄物を見ることはほとんど無い。よって、臨地実習の場で初めて他人の排泄物を見た時に精神的な衝撃を受けるのは当然なのかもしれない。教える側もそのことを改めて認識する必要がある。しかし、排泄は人間が生きていくために栄養を体内に取り込み、その後、不要なものを体外に出すという基本的で自然な行為である。人間が健康な生活を営むためには欠かせない行為である。その排泄を他人に委ねなければならない人たちを支援することは、看護師にとって重要な役割である。校内実習で模擬便を使用することによって精神的な衝撃を緩和し、学生が排泄援助を肯定的に捉え、倫理的態度で行えるような指導が必要である。

一方、模擬便を使用した陰部洗浄を体験してみてよかったについて、普通2名、そう思わない1名、模擬便を使用した陰部洗浄は、臨地実習で役立つと思うかについて、普通4名とわずかであるが存在していた。その理由は、「衣服を濡らしてしまうのではないかと心配でそちらに気をとられてしまった」「陰部モデルを使用していないので、あまり陰部洗浄の練習にはならなかった」「陰部モデルを使用しないと大陰唇を上げるとか実際にやれないので適当になってしまふ」などであった。患者役の学生はスパッツ等のズボンを履き、その上からビニール袋(20~45ℓ用)の角を切り取ったものを履いてもらったが、角の切り取りが大きく、フィット感が不足していた。また、陰部モデルを使用しなかったため、尿道口や肛門部の洗い方の原則を守りにくかったことが要因と考えられる。今後は、陰部モデルの活用、教材の工夫などが重要であると考ええる。

### 2. 看護師役体験から得られた学生の戸惑い

模擬便を使用したおむつ交換(陰部洗浄を含む)を体験して戸惑い・困った場面について回答が多かったのは、「時間がかかりすぎた」「洗うことに集中してしまった」であった。模擬便を使用したおむつ交換(陰部洗浄を含む)を看護師役として体験した感想に【迅速性】「手技を素早くかつ丁寧に行うことが難しかった」「きちんと手順を覚え理解していないと患者に必要以上の負担をかけてしまう」【患者への配慮】「おむつ交換に集中し過ぎて患者のことまで気を配れなかった」「夢中になってしまい、患者の気持ちに気づきにくそう」「集中し過ぎて声かけがおろそかになった」など記述していた。このことから、手技の未熟さや基

本の手順を習得していないこと、周囲に目を向ける余裕の無さから戸惑っていると考えられる。

おむつをあけた時に便(模擬便)があることに戸惑ったと回答している者も多かった。模擬便を使用しておむつ交換(陰部洗浄を含む)を看護師役として体験した感想に、【抵抗感】「模擬便と認識していてもやはり抵抗感があった」「やっぱり顔をしかめたくなくなる思いはあった。それを表に出さないようにするのが難しいと思った」「おむつを外した時に便が付いていた時の反応をどうしたらいいのか考えた」など記述している。模擬便であっても排泄物を見た時に精神的衝撃を受けたことを具体的に表現している。この体験を校内実習後のグループワークなどの振り返りの場面で、看護師として適切な倫理的態度・言動がとれるような意味づけをしていく必要があると考える。

「事前に考えた手順と違った」「必要物品が足りなかった」ことに戸惑ったと回答している者も多かった。模擬便を使用しておむつ交換(陰部洗浄を含む)を看護師役として体験した感想に、【迅速性】「物品の準備や手順など様々な工夫が必要だと思った」など記述している。模擬便を洗い流すという行為が加わったことで、1年次に学んだ陰部洗浄やおむつ交換の時より、お湯の量やガーゼ、トイレットペーパーなどの必要物品の準備不足、手順の工夫の必要性に気づいている。自分の体験から気づいたことを臨地実習で想起し、必要物品の準備や手順の工夫につなげられるような指導が必要である。

### 3. 看護師役体験から得られた学生の困難さ

模擬便を使用しておむつ交換(陰部洗浄を含む)を看護師役として体験した感想に、【清潔・不潔の区別】「清潔の手、汚染された手の区別がうまくできなかった」「手袋にたくさん汚物がついて汚れが広がってしまった。清潔・不潔がごちゃごちゃになってしまった」など記述している。手袋に模擬便が付着し、清潔・不潔を意識して行うことや新しいおむつ、リネン類など周囲へ汚染しないような手技・配慮が求められたことが困難と感じた要因と考える。

また、【便の洗浄】「便が付いた状態で陰部洗浄をするのは難しい」「模擬便が肌につかないように陰部洗浄やおむつ交換などすることはとても難しかった」「おむつに換える時に、患者に便が付着してしまいそうだった」「便が洗浄のときなかなか取れずに苦労した」など記述している。模擬便をお湯で洗い流すという行為が加えられたことで、排泄物があると想定した

場合に比べ、周囲のリネン類を汚さないように、お湯をかける量や流し方に配慮し、便を完全に取り除くことが求められたことが困難と感じた要因と考えられる。

模擬便を使用したことで、視覚的に手袋や新しいおむつ、リネン類など周囲へ汚染が明確に分かることを活かし、清潔な手と不潔な手の使い方や排泄物を洗い流す際に、周囲のリネン類を汚さないようにどのようにお湯をかければよいか、どのように流せばよいか共に考えながら指導していきたい。

### 4. 患者役体験から得られた学生の気づき・学び

模擬便を使用した陰部洗浄・おむつ交換体験を通して様々な気づきを得ていることがわかった。模擬便を使用したおむつ交換(陰部洗浄を含む)を患者役として体験後の感想を【羞恥心】【不快感】【不安】【早く終わってほしい】【申し訳ない】【配慮】の6つに区分した。「陰部を見られることはもちろん恥ずかしい。便があること、また臭気があればより羞恥心を感じるのだと実感した」「おむつをしている間、ねちょねちょして気持ち悪かった。模擬便だから冷たく感じたが本物だったから生温かく感じるのだらうと思うとさらに嫌な気持ちになった」「衣服に付いていないか、洗浄用の水がこぼれていないか不安になった。看護師の手際が悪いと患者も不安になる」「早く交換してほしいと感じた」「申し訳ない気持ちがあるので自尊心を傷つけないでほしい」「看護師が手技に夢中になっていて患者に気をまわしてもらえない(足が丸裸になって寒いなど)」など記述している。自らの体験を通して、事例の高齢者の様々な不快や苦痛に気づき、看護師として必要な倫理的態度・言動、身体的・精神的配慮の必要性の理解につなげることができると考える。

本校の学生は、「寝たきり状態にある高齢者のおむつ交換」の校内実習前に、おむつ装着体験をしている。おむつ装着体験から学生が捉えた高齢者への援助については、「プライバシーの厳守」「不快からの解放」「おむつからの離脱」「自尊心を傷つけない対応」「快適なおむつ装着に向けて」「皮膚の観察」「清潔の保持」「体位の工夫」「抵抗感の軽減」の9項目が示唆されている<sup>9)</sup>。おむつ装着の高齢者への援助方法を学んだ後に、模擬便を使用した「寝たきり状態にある高齢者のおむつ交換」の校内実習を行うことで、排泄を人に委ねなければいけない高齢者の苦悩と辛さを深く理解し、高齢者の尊厳を守る看護を実践できる人としてさらに成長できると期待している。

## VI. 結 論

模擬便を使用した陰部洗浄・おむつ交換体験の学習効果と体験した学生が「どこに戸惑い」「どこが困難なのか」「何に気づき」「何を学んでいたのか」を明らかにするために調査し、以下のことが示唆された。

1. 模擬便を使用した陰部洗浄・おむつ交換体験の学習効果は、臨場感を実感しながら学ぶことができ、実践に活かすことができる教育方法である。

2. 看護師役体験による学生の戸惑いは、手技の未熟さや基本的手順を習得していないこと、周囲に目を向ける余裕の無さ、排泄物(模擬便)を見た時の精神的衝撃である。

3. 看護師役体験による学生の困難さは、清潔・不潔を意識して行うこと、新しいおむつ・リネン類など周囲へ便汚染しないような手技・配慮である。

4. 気づき・学びは、患者役体験後の感想から「羞恥心」「不快感」「不安」「早く終わってほしい」「申し訳ない」「配慮」の6項目が明らかになった。

## VII. おわりに

今回の調査から、学生の便失禁している寝たきり状態にある高齢者のおむつ交換の援助に対する「戸惑い」「困難さ」の具体的項目が導き出されたことは、高齢者看護において大きな成果であると考えられる。教員が言葉で伝えるより、自らの体験で得られた戸惑いや困難さから、どうすれば目の前にある問題を解決できるのか考える力を育てることができる。看護師は、対象の状態をアセスメントし、その人に合わせた援助を実践・評価する力が必要であり、考える力はなくてはならないものである。明らかになった戸惑いや困難さを教員が認識したうえで、発問や意味づけとして効果的な指導に活かしていきたい。

今後の課題としては、臭いを模擬便に加えることである。学生の感想にも「便があること、また臭気があればより羞恥心を感じるのだと実感した」との記述もあった。排泄を人に委ねなければいけない高齢者の羞恥心や不快感をさらに深く理解するためにも臭気を

加えることが重要である。学生が臨場感を実感しながら学ぶためにも教材の工夫を今後も検討していきたい。また、アンケート調査対象が限られた看護学生であるため、研究の限界と捉えている。

## VIII. 謝 辞

調査にご協力頂いた学生の皆様に深く感謝申し上げます。

## 引用・参考文献

- 1) 平成21年度高齢者白書。第2節高齢者の姿と取り巻く環境の現状と動向。内閣府ホームページ。
- 2) 太田真理子。模擬便を用いたおむつ交換演習による学習効果～演習後に経験した臨地実習の中で感じた学生の意見より～。日本看護技術学会学術集会講演抄録集。7, 44, 2008。
- 3) 永井祥子(他)。模擬胎便を用いたおむつ交換技術演習の評価—看護学実習における技術経験の違いに焦点をあてて—。母性衛生。50(1), 182-189, 2009。
- 4) 水戸優子(他)。卒業時の到達度を踏まえた看護技術教育～到達度をきょういく内容にどう落とし込むかについての試案～。看護展望。33(3), 264-269, 2008。
- 5) 山本君子(他)。老年看護におけるおむつ装着体験から学生の学び—おむつ装着中の高齢者への援助方法—。東京医科大学看護専門学校紀要。18(1), 2008。
- 6) 新村 出。広辞苑第6版。株式会社岩波書店, 2008。
- 7) 原 祥子(他)。看護実践能力育成に向けた高齢者疑似体験の実際と学習効果。神戸市立大学紀要。963-973, 2005。
- 8) 厚生労働省医政局看護課。看護基礎教育の充実に関する検討会報告書。平成19年。4.16。
- 9) 神原裕子(他)。国内外における看護実践能力に関する研究の動向—看護基礎教育における看護実践能力との関連。目白大学健康科学研究。1, 149-158, 2008。
- 10) 浅川和美(他)。看護基礎教育における看護技術教育の検討—看護系大学生の臨地実習における看護技術経験状況と自信の程度—。茨城県立医療大学紀要。13, 57-67, 2008。
- 11) 武田洋子(他)。卒業時の学生の看護技術に関する自信と臨地実習での学習体験との関連。山梨県立大学紀要。11(7), 2005。